COVID-19 の 5 類感染症移行に伴う呼吸機能検査の件数変動についての検討

◎野村 日菜乃[1)]、境田 知子[1)]、高橋 ゆき[1)]、上道 文昭[1)]、天野 景裕[2)]
東京医科大学病院 中央検査部[1)]、東京医科大学病院 臨床検査医学科[2)]

【はじめに】2023 年 5 月 8 日より COVID-19 は感染症法により 2 類感染症から 5 類感染症へ移行した。それに伴い、当院では検査依頼方法について見直しがなされた。今回、呼吸機能検査の依頼方法見直し前後で、どの様な変動が見られたか検討したので報告する。

【変更内容】5 類感染症へ移行前は PCR ・ CT ・抗原定量検査の内どれか 1 つが必須であったが、移行後は不要となった。

【対象】5 類感染症移行前の 2023 年 2 月 15 日～4 月 30 日に依頼があった呼吸機能検査を A 群とし、移行後の 2023 年 5 月 8 日～7 月 18 日に依頼があった呼吸機能検査を B 群とした。A 群 B 群共に検査日数 56 日間で統一。

【方法】A 群と B 群の件数及び検査依頼科を比較検討した。

【結果】A 群の総件数は 548 件、B 群の総件数は 631 件で、B 群の方が A 群より 83 件増加していた。予約枠外の依頼が、A 群 8 件、B 群 21 件と B 群の方が 13 件増加していた。検査依頼をした診療科は、A 群 B 群共に、整形外科が一番多く、次いで呼吸器内科、呼吸器外科の順であった。また、B 群では A 群に比べ診療科が多岐にわたっていた。

【考察】B 群の方が A 群より件数が増加した要因は、COVID-19 の検査が不要になったことだと考えられる。また、検査依頼をした診療科が増加した事も同様の理由で、依頼がしやすくなったためと推察される。呼吸器疾患に関連した、呼吸器内科・呼吸器外科からの依頼よりも、術前の整形外科からの依頼が多かった。COVID-19 流行前の検査予約枠は、スクリーニングと精密検査を合わせて 40 件であったが、流行後から現在は約 13 件に制限している。今回の検討から、検査依頼は更に増加すると予想されるため、今後予約枠の見直しをする必要があると思われる。

【結語】COVID-19 が 5 類感染症に移行したことで、呼吸機能検査の件数が増加し、検査依頼をする診療科が多岐にわたったことが確認された。今回の検討では 5 類感染症に移行したばかりで母集団が少ないため、今後も件数の変動等を検討していく必要があると考える。

東京医科大学病院　中央検査部　03-3342-6111 (内線:3204)